



1 旧岩田家住宅

この建物は、仲町伝統的建造物群保存地区の東端にあり、寛政時代末から文化年間(1800年前後)に建てられたものと考えられる。弘前城下の中級武士の住宅で、また敷地利用も旧態を保ち、当時の生活を知る貴重な遺構である。



と推定されている。

5 揚亀園

弘前の実業家であった中村三次郎の求めに応じて明治時代後期に小幡亭樹が作庭を開始し、後に池田亭月が手を加えたとされる大石武学流の近代庭園である。



2 旧伊東家住宅

この建物は元藩医の住宅で、市内元長町から仲町伝統的建造物群保存地区に移築されたものである。建築後、数次の改造を経ているが、移築に際しての解体修理で藩医時代を想定した復元がなされ、江戸後期の住宅のようすをよく伝えている。



6 弘前市仲町伝統的建造物群保存地区

弘前城の城下町は、南北に長く東西に短いほぼ矩形の弘前城を、自然地形を活かしながら四方から取り囲むように配置された。現在は搦手門となっている北門(亀甲門)が当初の弘前城の大手門であり、その北側に亀甲町と呼ばれる一筋の町人町をはさんで、数か町の侍町が配置された。この侍町を仲町と呼んでおり、この地域のほぼ3分の2を保存地区としている。保存地区は往時の地割りをよく踏襲しているほか、道路沿いに連続するサワラの生垣、点在する門や板塀、前庭の樹木が独特の景観を近年、多くの伝統的な町並みが大きく変ぼうしているなかで、藩政時代の武家屋敷街の景観を今に伝える地区として重要である。



3 石場家住宅

石場家は代々清兵衛を名のり、屋号をマルセと称して藩内のわら工品や荒物を扱っていた商家である。建物の建築年代は明らかでないが、形式手法からみて、江戸時代中期と推定される。津軽地方の数少ない商家の遺構として貴重なものである。



4 旧菊池氏庭園(弘前明の星幼稚園庭園)

江戸時代末期から津軽地方で盛んだった大石武学流の特徴をよく伝える近代庭園の1つで、弘前で薬店を営んだ菊池長之の別邸に起源し、昭和初期に活躍した池田亭月の作庭になるもの



9 北辰堂(ト伝流剣術)

戦国時代の剣豪塚原ト伝に流祖を求め、弘前のみで伝えられている古武道の流派である。伝えられるところでは、ト伝より十六伝目の田中武平の弟子中村次太夫が、延宝年間に津軽を訪れて棟方十左衛門清久(馬廻組頭)に伝授した。後に小山次郎太夫家が師範家として継承し、現在まで伝えている。

移築したという伝承に従えば、城内でただ一棟戦火にあった建物となる。



10 山口製畳所

弘前市指定「趣のある建物」

11 川崎染工場

弘前市指定「趣のある建物」

12 旧弘前市消防団西地区団消防屯所

弘前市指定「趣のある建物」

※「趣のある建物」

弘前市には、弘前城をはじめとする歴史的な建造物や、明治・大正期の洋風建築物などの文化財が数多く残されています。また、文化財には指定されていないものの、歴史と文化が息づく情緒豊かな建物も数多く点在しています。この制度は、これら弘前の風情を醸し出している古い建物を「趣のある建物」として指定し、市民や観光客に発信することで弘前の新たな魅力の発見や、城下町としての奥行きを体感してもらうことを目的としています。

7 旧梅田家住宅

幕末の嘉永年間に建てられた武家住宅。もと在府町にあったものを現在地に移築している。



8 弘前城北の郭北門(亀甲門)

北門ほかに比して大きく、銃眼がないなど外観もやや異なる。また、初代藩主為信が攻略した大光寺城の門を

13 青森県護国神社